

【結果】 調査期間2カ月で血培陽性60例，うち介入27例でのべ57件の提案．主な内容は抗菌薬選択21件，投与量15件，検査提案15件などで，受入は47件（82.4%）であった．

【考察】 短期の検討ではあるがAST介入によりASプロセス指標は改善傾向がみられた．当院検体の薬剤感受性は良好にて大切にすべく，抗菌薬適正使用を引き続き先生方のご指導ご協力を得て推進し，医療の質および安全の向上に貢献したい．

6. 当院での産後ケア事業の取り組みについて 4階東病棟

○廣岡 美絵 橋本 麻衣
平田 真美 山田 由貴

産後は母親の心身の状態を整え，児との生活に慣れ親子関係を構築するために大切な期間である．しかし近年，核家族化や高齢出産の増加などを背景に，産後の期間をサポートなしで過ごす母親が増加してきている．孤立した子育てが産後うつや自殺，虐待などの増加につながり社会的な問題となっている．そのため地域で産後のサポートを行う「産後ケア事業」に取り組む市町村が増え，姫路市も2016年度より開始している．当院も産後ケア事業の利用施設として開始年度より参加した．

2018年11月現在で産後ケア事業の利用者は宿泊型14名となった．また2018年度4月から通所型サービスも開始し，延べ27名の方が利用している．

当院で実施している産後ケア事業の実際の内容や，総合周産期母子医療センターとして取り組む産後ケアの重要性・今後の課題について報告する．

7. エルトロンボパグによる治療を実施した再生不良性貧血の6例

内科²（血液・腫瘍内科¹）

後藤 有基¹ 上田 怜¹
望月 直矢¹ 猪股 知子¹

久保西四郎¹ 平松 靖史¹
奥新 浩晃²

【背景】 本邦では重症再生不良性貧血はウサギATG+CsA ± G-CSFが標準治療とされてきたが，2017年8月にエルトロンボパグ（レボレード[®]）が使用可能となった．しかし，本邦では血液学的奏功と生存率で劣るウサギATGを用いる点，エルトロンボパグの使用時期がATG後2週間後とされていることが海外とは異なるため臨床経験の蓄積が重要と考える．

【方法】 2017年8月～2018年3月に当院でエルトロンボパグ治療を受けた再生不良性貧血患者6例を対象として後方視的に有効性，安全性を検討する．

【結果】 治療開始1カ月において2例で血小板数 $>20000/\mu\text{L}$ となり血小板輸血依存を離脱した．治療開始3カ月において3例に3系統の造血改善を認め血小板輸血依存を離脱したが，赤血球輸血依存を離脱したのは2例であった．重篤な血液学的毒性として1例で治療開始3カ月時点で急性骨髄性白血病を発症し治療中止となったが，非血液学的毒性はG2以下であり安全に使用できた．

【結語】 重症再生不良性貧血に対してウサギATGにエルトロンボパグを併用することが有用である症例を経験した．追加治療に関しては非血液学的毒性が少なく安全性の高い治療であると考ええる．

8. 高齢者における浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘除術の検討

泌尿器科

○前田 光毅 上田 進
西川 昌友 楠田 雄司
原口 貴裕 小川 隆義

【目的】 高齢者における浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘手術の成績の検討

【方法】 2008年4月から2018年8月で，当科において浸潤性膀胱癌に対して膀胱全摘出術お